# NOTE BOOK

昭和二三年八月より

仝　二五年

昭和二十三年

八月二十一日　神崎清来訪、「煙草モデル考」執筆わつき、
種、資料多、感慨多し、

九月四日、博史と共に出浦四花火大会に行く、
正二と正二の役所の演芸係多氏らの勧誘
による、花火を堪能、遅く来訪せかれあり
りをよろこぶ。一泊。実に珍客のまれしいつちなん。

九月五日　朝十時の上りで帰路につく、途中松本下車
移入で戸田井に立寄る。母上病に元気にて
肥る。妻と二枚、毛布その他の荷造りをする。
六日夕刻の汽車でかへる、

〃二十四日　野田宇太郎氏訪ずにて羽田事件の山本利武と
女史来訪、山本氏より新に、事業より命、利の
信金融係に振かえ、新しい方とよやうをて。
白洲次郎のこと、連絡もいる。伝説、
来月一杯に一回丁取よりにて事務、
を終す。活発に務めこ廃とが未決定の由
子供見来田鶴子氏二人四、羽田事件
二十五日、午後より青山墓地に立てに墓参り
草高く生ひしげり、根かなくて、雑草ぬけず、
折りかりてやうやく掃除し清め、持ん弦切
墓上で、こんなにあれ居てさせ、何ともはない
ものだ。ものとうかとは第二回は帰りなく
いつもしやとうか。典　金地に立寄り、帰
一七年の移除代を支拂ふ。

九月二十八日

高き土産率は能率と相またねば何の役にもしめ
ところが高き土産率をもつた国は、能率が低い。
高い土産率は常ち未熟な文明の徴
であり、不能率の徴である。土産率が低くなるとともに（一般に）例えば能率に陥ち行く。ここにその生
国経済を問はず、十分考へる。

戦争の経験をも、彼はかとうて採用すべきの
基礎学の問題は、何も今日新しい問題ではない。何し
ろ今やそこに新しい必要が起つて来ました。

ここにかくて、三つの主要問題がある

一、社会の一定とその変化（不変）の関係

二、能率増進の最善策

三、性的問題に関する必要の性質

社会学は民族の幸福を助成する人にとつて最重要
である。ものもつたが、今日の新学は一層それを
つひきつぐものである。

十月二日

西田幾多郎「わたくしの考は宗教ーちか」掲載
される。

小林秀雄さん来訪、信夫と一緒に三人で野上氏
を訪問する。よきお家なり、秀雄さんは食欲の
最後の境に立つ人の如し。

小林氏と共に十八日月曜の夜氏をお山に訪ふ。

政策をなす、平家の時宗子、吉野時代の政治をなすこと

十月五日　教育勅語発布、三宅雪嶺氏を中心に教育
一年市の主宰勅語発布五十年の歴史より、十月
五日の書第を見つつ問題を考へ、迷ふなり

十日

河出書房発行の「若い男」に「未来の民族のために」

十数年寄稿、一月号に出る

十五日　新聞氏宅にて、十三夜（後の月）の句会あり
メ方五時より集る、小原ひろ子嬢を誘ひ
に、この日はじめて出席される。

義経、秋風、少女で、松茸入

序歌　後の月、十三夜、栗の味

新聞「文化生活」にエレンケイについて寄稿
の約束す、メ方来る五日

十六　秋晴をじ風強し、村山村の山村氏宅に投宿
高等氏を訪ふ、信夫と二人なり。小林秀雄氏
の伊勢を書法家のもつ上とする。
昭和地の風光を偲ぶ色濃いまさる。
振氏の家族一家中の村山氏別宅に
一泊す

二十七日　在京社員会　会場の　墓の手帳新年号
に陰陽調和一食生活について七枚半寄稿

十一月五日　エレン・ケイ異伝ハ校文化人家病

九日、日比谷公会堂ニ於ける遺伝社レポートの必要運動
ニついて演説会ニ出席、今すべての意境燈ま
せと叫ぶ、若い男性二人なり。

十日　大映より、日本映画放送の
[illegible]
[illegible]
やその他の場合は一ヶ月を第一期[illegible]
しあり。十一月末頃五月上る予定の由

二十四年一月
女性改造一月号、二月に平塚雷鳥のモデル考　煙草の英相
連載さる

二月三日
青鞜時代、思ひ出の女たちの第一稿、脱稿す。
保持白雨[illegible]を主題扱ひの[illegible]青鞜時代の人たち
で故人となった人を次々に書く計画なり。

四月五日
主権とは何かと云ふ問題こそ平和についての基本問題で
ある。
二十億と称する世界人類のその日その日のすべての問題
の解決は、実に政治と中心問題を解決する
ことにかかっているのである。そして政治の正しい平和
と進歩かは人間の安全を保障し得るに
切な制度ができるかによって決せられるので
ある。

一九一四年
階級意識より人類意識へ訴へよ。
世界主義
国際主義は国家間の紛争を解決しない
必ずしもそうは――世界主義である。
その目的は現存の民族国家機構を超え
その上に、人と人との間に法的秩序によって

平和を創造するのであることを明に声明する意味と意義かんです

○侵略とは云ふことばつよの強つよ親分二三

五月二十一日　平和を守る貴族倶楽部、大手町　全国
燃料令後十年会にて開かる、欠席せるも、
左の如き電報す
平和への道は世界連邦の建設にあると信
ず、この目的への人の関心を動かす

二十二日　大掃除の日なり、快晴。畳を干し、
後の掃除に大わらわなり、
北戸家族の佐藤保長来訪する様
ロニ与あるも後れ見えず。

二十三日　曙生の童話集五千部印刷来る、後の五円と話出る、
直ぐの指印我れ、ニューフレンド社より使来る。
如郎さん迎ひ、曙生のよろこびを思ひ、やうやく
肩の軽くなりし心地す。
後を追ひ藤氏へ二十九日の晩ご夫婦の手
紙を書く。　朝日保険に後後のハガキ出す
二十四日　曙生に昨日の書籍よりの知らせを、通知す
博史年賀状ニューフレンドの井上氏訪問、紀かえ
くる。

二十五日、
ひよこのまごと、成城まで出に八部、吉田事務、
紀伊国屋書店に各十部ハガキにて書状す、
堀川猛生に一部宛送る
後、代田の藤原邸にて千葉人会の交歓会
二十六日　行く、出席す、大塚さんのお声をけ下めきく。
横澤氏より クラブ　会費半年分の最寄婚さる
七月七日　一部
ニューフレンド社より ひよこのまごと五十部
届けてくる、早速二十部、博士奥様を通じ
成城の学校五年の川上先生に届け頂く。
北條の市橋、長野さんハガキ。　中村孝作さん
来訪。　博史の誕生日　ケーキ一個　表妹
さんのハガキに答す。
対山荘の松山氏　吉氏　曙生家行保証
来る。
七月八日　吉氏
吉氏代さん、中山さんと来訪。　暑さ来の夕ニザクラ
成城十五坪より　三室坪五十部　代金一五の受入
十九日
ホームメーカーズ クラブにて講演する、土肥勢氏知れい
新聞/原稿の注文来る。

九月二十日

破船問題会に「ひょうのまと」十部委托

中江忠之氏に五部委托

伊藤先生、村上先生来ス人、生田花世氏、弘前ゆみ氏

竹中令息計五部宗婚　方丈

伊藤ちゑ氏一冊信ず一部

九月二十六日

二ユーヒエトから五十部届ける。

十月十日

出版工作部の子達出産祝の展覧会、芝浦松竹の美術作製部に南部小夜子、長谷川、大坂文さまと一緒に行く。

帰路、内匠寮の、花柳街入口と出口をはいって東左側に今度、新に開店した「代し餅」に行く。

十月二十七日

北條本家氏に引越祝の品を送り、十月二十七日付にて印刷六部月曜社発行の指示物を つけた。別に内容説明して出す。

原稿は、書れに人を入れぬこと、書るうえ四カ月すること。

まう価格一冊一〇円とすれば三十五万円とすること、

地價の考慮の時間となることをかきやる。

十月八日

山野清の紹介の合流宣伝展覧に行き、帰路松坂屋

十月九日　ラジオ・パンの表を映画をみる。

朝方生産保護部高橋に保護証書計四の上

は送送永さきの住所を書く。

金子晩華氏和平事務。

「ユーヒエトに関する保護の通達」中人

永で二百円なり

十月十五日　坂本、きくみ、北見氏へ

奥村氏にひょうのまとを宣伝。

産業研究社、祝賀会、吉田甲子太郎氏に

宗婚。武内、村宮、竹中繁子氏へ宗婚。

十月四日、千代子の結婚及天皇の今日天皇

去る。

十月十日　朝方生産保護部へ印刷物送付の

住所を出す

十月　去年最後の日会、

十月九日　ひょうのまと五部　明重に送る。

山本、佐藤氏へ宗婚

十月十四日

表田草子氏　長野県　跳開先にて死亡（二十九歳、肺結核）

日本保護所報の伊川カラヒヤ夫人来了に決るか？

一九五〇年
二月二日
[illegible]
の経文を家族より、伝聞による
乙二一月廿一日上京、本日帰る、他事は
別の外よいのをみて、大いなるかな。

四月六日、十日の処(回)向用のための放送(朝の行
向)の録音をとるため、午後より放送協
会教養部社会課の人々来訪。十五分
間の対話を録音。処(宮)部は平和宣部より
よって完了するとよしとケイの言葉をいい
て、処の師教示を力を尊を第平和宣部
の主に集結したい云しの強調とした。
十日、朝七時四十五分から八時まで、十五分間「朝の訪問」
にて録音放送される。話史は私し、前日の夕刊
毎日新聞に、他の人の名になつてるもので、書きを
加えた。十日の朝の訪問と考へ、例の通り朝
寝をしたら俗にきかなかつた。立ちし、きく苦し
い声であつたらう。乙二より電話をもめ先生(十日朝五時三十)
十二日、お産の電話あり。
十二、十二、十三と、十二日、十日朝のラジオを
聴いたとつてお人たちより他(通)心の使いを送けた。
[illegible]
[illegible]

の風格ーはじめて安くにたえつゝの放送ひとゝ
のが私共の思ひでゝ云ふと、それからこれはなの
生きかたは仏と共に困難なことでしょう、偽りなく
信念に徹して生きたいと思ふとあった。
客生へ出産祝い（金三千番）為替にて送る。
昨夜より耳の中痛み、中耳炎ではないかと思ひ
下れたが、薬をあてて注す、そしたらよくきくさん
ありく。永て中耳炎の心配はなくなったが、北戸
行はし延ばすことにする。
平和問題、講和問題につゝて、奥の信者を代表
する声明を国内及び国外に、今こそ叫びなければ
ならない時なりと、の数日しきりに考へられた。

十四日
熱田大先の兄弟を二業泉寺田中あいさつに連れ
ております。手法博士と軽部博士の病気見舞に
行く。昨日の外の元気にて心強し。方昌寺墓
地を教へ、キ良上野介の墓を見る。こゝに
は他にも幕末時代の方々の墓所いくつかあり。

二十四日 明會、主護霊會に出席、博史の
主護霊の調査を竹内霊媒にはたらか
す。今より四百二十前年の越中の人
上村吉衛門宗定北古と判明。上杉家
侍の人にて、まことに大悪で、死を惜れぬ
ドキウある人なるべ。七十八才にて帰幽さる

[redacted]

神月分は新暦にて十月十二日。
生れは九月十二日、天正年代の人なり。
主護霊の言葉
常是 昂空 道 ガン
水 木 火 三 味
慰 変 光 空 寂
昇 ジン 成 自 我

二十五日 今日より病床に博士の主護霊 宗定北古
導をまつる。

二十六日 地蔵の本第横武氏宛 病状報告の
手紙を速達で出す、二十七日が六ヶ月祭の
最後の日なので、信者を集めたいと思ふ。
二十日書一六日書き上げつゝ、後取事は、
子に、家内家をさがして引継されたいと
博士を通して依頼し、書代を渡した。

二十七日、
新聞社より新年のゼンマイを三株贈中
にお持せ下さる、早速家内家の庭に
植えわけて植える。世界苑の
平和問題につゝて伊藤氏の所感の
起稿の心まゝ一部。題は武装放棄国
の世の移り。これは小社会のみの信仰として。
（最近）
国連に国際法として王法を採用する事者が二、

四二〇、二九五人の署名で提出されたもの。
「東京新聞」連載の国校完二氏の小説
に青鞜社の歴史の行列の二番目に近づく
ことに反対しやうと云ふのは、問題になります。
おそらく婦人会あたりの一大運動になるのでせうか、
作者に手紙をつけ、ペンを筆上にて訂ぜられるやう
要望するとのこと。
五月八日、お馬伊風氏、伊豆新宮温泉にて
脳溢血にて逝かれる、二十五歳。
「婦人公論」年坂、翻訳中任下のユニウヤン教
会内の成美女学校の時のことなど思ひ出され、
感慨深し。長山章はさぞ驚かれ実に感じ入る
九日 神崎清氏久別来訪。新婦人協会のこと
を話くちあに。 午後 樋口夏
とおかしする
十一日、伊藤氏焼け跡の婦人公論社裏二のものを頂、
訪ねに行く。午後うかがう。武蔵野の夫
人と共に四時田さんの温室の蘭の
花を見に行く。珍しい日です。
五月二十九日
玉川学園お宅の同にて句会（秋草会）
あり。博士と共に出席。前日の風雨
晴れて、清々しき好天気。雲高く立ち

初夏の室弾に美し。
十度先生は出席あり食事をすませ、ゆるゆる
きけしてゆにあがる。
学園の風景はいつ見ても飽かず美しい、
山法師、藤の花、しもつけ草、匂ひたき
花のみ多し。
田上のおかあさんの教養にてお茶の点前
をになる。あやめ咲く池をひかへた座室
にかけ田上さんのお住んでいらっしゃる。
勉強家十一時まで、ほれて見い居る。
松の緑の丘をめぐるや山法師
雲いくつ山野を西の花あやめ
六月八日
田上おかあさま来訪。蓮華草、あさみの
ちり花と下野一株雨中をおもち
下さる。そんく花瓶にさし。下野は
元に植える。よき花なり。
はげし雨、梅雨の雨はかし早
きやうなり。
写真十枚出す、陶あんちのおきつなど
送る。 夜風強し、明日晴れなるべ

六月二十六日

東郷中の共国務局顧問ダレス氏に左の日本側の講和に関する声明を、シーボルト外交局長の手を経て提出した。何ともしかたなく多くの人に呼びかける時のなのでの、婦人、ガントレット恒子、植村環氏を世話人に呼びかけ五名の発起人名で、異論なくて、とにかく皆に会ったのは安心でありました。

高氏たちは何ってくれるは世話人

声明書は、彩ダレス氏に提出するためのもの。この重大な時局日本婦人の立場を表明をしてもよいと思い、政治色なき仕方の婦人の発明を待て、法的書を国の内外に公表したりと、野口家にもいってあったのであるが、他の四氏も世話人に賛成してくれたので、一応改めず、用いなかった。

英語はガントレットさんに頼んでいる。

なほ上代、ガントレット両氏に提出者代表し、宛名は外国宛で、この日、声明書を持参、会所は私へ電話する、声明書をみて送付を急ぐ。

声明書や案

非武装国日本婦人の講和問題について

一、われわれは日本国憲法に定められた非武装、非交戦を飽くまで守りぬく決意である

一、世界平和の実現を使命とするわれわれは絶対中立を堅持し、二つの世界の共存、統合に、あらゆる平和的手段をもって努力する

一、かういふわれわれは全面講和によって、連合国のすべてから、同時に日本の中立が確認されれば、侵が保証されることを、日本のため、同時に世界平和のためまづ何よりも希望する

一、中国とは歴史的、地理的、経済的、いづれの面からも考へても今後友好関係を特に保って行きたい。そのためだけでも単独講和を躊躇する

一、非武装国日本不可侵の国際的協約によって、いづれの国の軍事基地をも、日本に置く理由と必要を失ふことをわれわれは期待し、念願する

一、いづれの国の戦争にも協力しない。夫や息子を戦場に送り出すことを拒否する

一、講和條約成立後は、国際社会の一員として、自国の安全保障のためばかりでなく、すべての国の安全と自由と独立のため、国際平和運動にあらゆる面で率先、協力しその任務を果したい

昭和二十五年六月二十六日

ガントレット恒子
平塚らいてう
上代たの
野上弥生
植村環

七月三日(日)

午後(四時半)より平和問題についての座談会。日本YWCAのめざす新しい社会事業、会場は九段に新に建てられたYWCA会館。

出席者は、武田清子、植村環、カレットン、ブラッ[illegible]、梅田[illegible]中、地域婦人会代表の近岡[illegible]氏。来る二十[illegible]日六日メレス氏に招きて講和問題についての市民集会の問題を中心に話とする。

四日、

婦人の平和についての声明書発表の第二は、つぎ動員のお話会を開く。場所東の庶小で、時かおこり、外出かつらいので、強制的に自宅までおいでを願う。

声明書提出者となった、カレットン、植村、与代、[illegible]上、私の外に市川房枝氏に来て頂く。

[illegible]十一時近く[illegible]

五日、第二の声明書出来上り、[illegible]、[illegible]名の人選、[illegible]伝形式になれば書く。

六日、市川氏の平和を電話で伝報、午後会見、五氏を電話でよって、他方面の婦人のことを並べる声明書をもちよる。

一時間をつけたること、婦人平和委員会[illegible]をつくって永続的[illegible]する運動は創造的に、すべきことなどについての意見を述べる。

八月三十日

与代さん氏、夕刻入ってにて来訪。

メレス氏より先般のあの招待書に対し、更に詳細な通書のあったことを報告される。自の内容は、日本婦人はおこえ[illegible]、[illegible]なる人たちの考へをきくことが出来て幸せであった、今度婦人たちの一部の数ではあるが、意見を知ることが出来たのは、よろこびである云ってよろこびのようである。

与代さん、[illegible]の会に強く平和委員会をつくることにつき、人選など依頼される。ガントレット、植村氏は、[illegible]

私たちと共にすることをおそれているらしく、クリスト教徒をもつての平和運動をなし[illegible]

[illegible]のとなりの[illegible]で、強くこの委員会[illegible]

加はって[illegible]あるかないかあらうとしてみ、はいらないであらうこと。

松村氏の大成公方紀史部の働く
史をよく、一年余りの家也書きを
送る事を。皆可成年反対の事
れを訴へてゐる。代表者史部部長、山
崎治さん。
福島市の平和運動推進連盟の
結成大会はに送る事を出す。

憲法第九條改正反対
再軍備反対
軍国主義反対
（の復活）
アジア諸国との好、経済協力

市人口、七百一万五千人（昭五二、五、一一現在）

二七年九月上旬
相馬一郎氏の代（会葬、永眠の地市伊勢山
町に、地主等 市副会さん笹木清一
氏（吉）の協力によって建てられた。文字
は役所氏長形 卓之氏より！